

令和7年度 全国学力・学習状況調査 調査結果と改善の取組

4月に実施した6年生対象の全国学力・学習状況調査の調査結果概要及び今後の改善の取組について御報告します。

平均正答率(%)

	国語	算数	理科
本校	63.0%	52.0%	48%
東京都	70.0%(-7%)	64.0%(-12%)	60%(-12%)
全国	66.8%(-3.8%)	58.0%(-6%)	57.1%(-9.1%)

※（ ）の数値は本校と東京都平均及び全国平均の差を表しています。

正答数四分位

	国語(全14問)			算数(全16問)			理科(全17問)		
	本校	東京都	全国	本校	東京都	全国	本校	東京都	全国
第3四分位 B層	11.0問	12.0問	12.0問	12.0問	14.0問	13.0問	11.0問	13.0問	13.0問
第2四分位 (中央値) C層	10.0問	10.0問	10.0問	8.0問	11.0問	10.0問	8.0問	11.0問	10.0問
第1四分位 D層	7.0問	8.0問	7.0問	5.0問	7.0問	6.0問	5.0問	8.0問	7.0問

※「四分位数(しぶんいすう)」とはデータを小さい順に並び替えたときに、データの数で4等分した時の区切り値のことです。4等分すると3つの区切りの値が得られ、小さいほうから「25パーセンタイル(第1四分位数)」、「50パーセンタイル(第2四分位数または中央値)」、「75パーセンタイル(第3四分位数)」と呼びます。

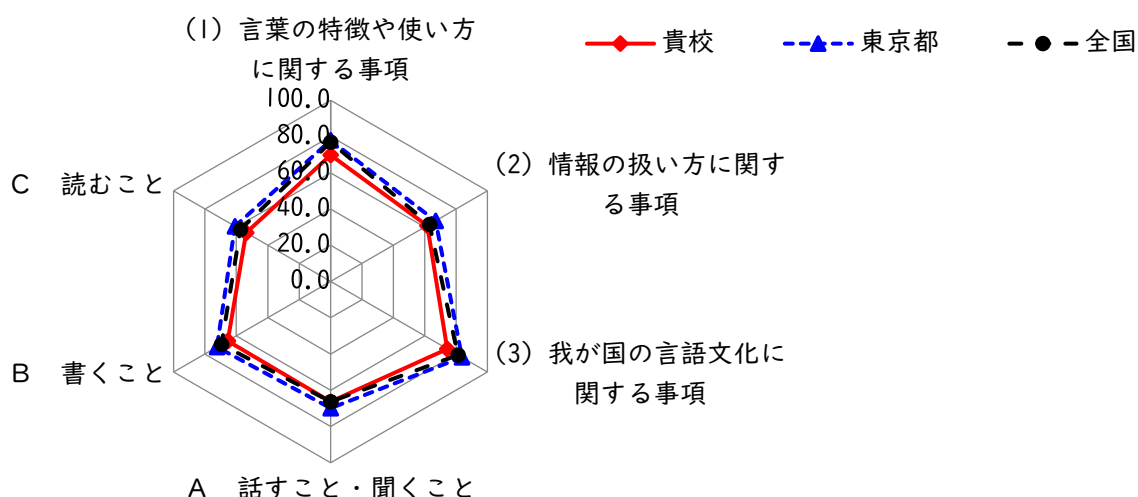
今年度は全教科で東京都及び全国の平均正答率を下回る結果となった。東京都平均と-7%~-12%の差が見られた。全国平均と比べ、国語は-3.8%、算数は-6%、理科は-9.1%であった。

また本校の平均正答数は、国語14問中8.9問、算数16問中8.4問、理科17問中8.2問となり、第2四分位(中央値)で見ると、国語で10問、算数で8問、理科で8問であった。

そこで、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各教科の詳細分析を行い、授業改善の取組に努めていく。

【国語】

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



集計結果

分類		区分	平均正答率(%)			差	
			貴校	東京都	全国	本校-東京都	本校-全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.8	77.9	76.9	-8.1	-7.1
		(2) 情報の扱い方に関する事項	61.6	66.9	63.1	-5.3	-1.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.4	83.8	81.2	-9.4	-6.8
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	66.3	69.9	66.3	-3.6	0.0
		B 書くこと	65.5	72.4	69.5	-6.9	-4.0
		C 読むこと	53.8	61.0	57.5	-7.2	-3.7
評価の観点		知識・技能	68.9	76.6	74.5	-7.7	-5.6
		思考・判断・表現	61.0	67.1	63.8	-6.1	-2.8
問題形式		選択式	63.2	68.7	64.7	-5.5	-1.5
		短答式	72.9	80.0	78.5	-7.1	-5.6
		記述式	49.4	59.3	58.8	-9.9	-9.4

分析

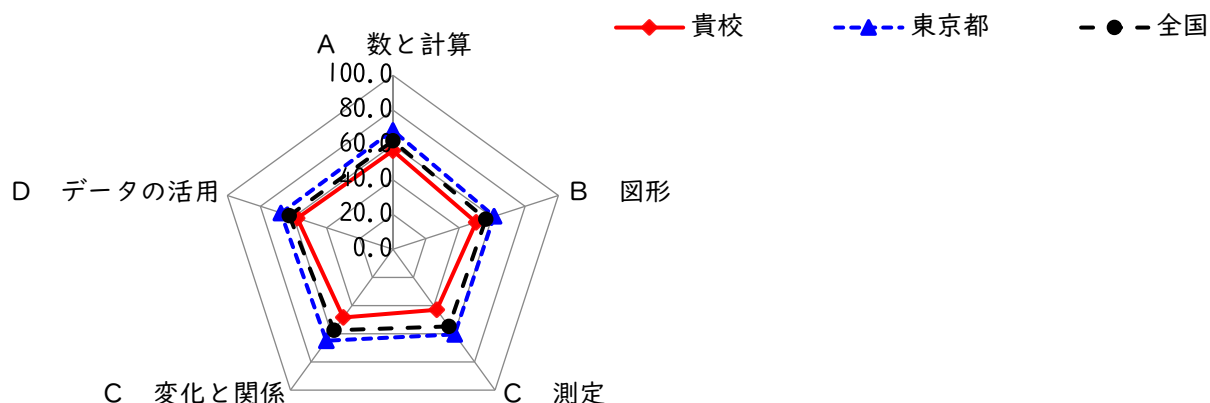
「学習指導要領の内容」における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の全体にわたって、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「知識及び技能」の「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」と「(3) 我が国の言語文化に関する事項」である。漢字の習得が十分でないままの児童が少なくない。また、「問題形式」の「記述式」の正答率及び差にも顕著に表れ、未記述の児童が多いことから書くことに抵抗感をもっていることが分かる。どの区分も連動し、関係性が高い。そのため、主語述語の関係や思考に関わる語句の使い方、単語の知識等、語彙力を高めるとともに、授業を中心に日頃から書く経験を積ませる必要があると考える。

授業改善

- 国語科や読書科を中心に様々な教科で考えたことを文章に書き表していく経験を積み、文章を書くことに慣れ親しむ。また、国語科においては物語の内容を正確に捉え、登場人物の思いを想像したり、考えたりしたことを話し合う。
- 国語辞典・漢字辞典の活用（3年生以上）を積極的に取り入れて、言葉の知識を増やす。
- 朝学習の充実を図り、読解力や文章力を育む。
 - 5・6年生はよむYOMUワークシート(読解力)。
- 朝読書のフル活用(15分間読み続ける)を図り、読解力を育み、活字に慣れ親しむ。

【算数】

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



集計結果

分類	区分	平均正答率(%)			差	
		貴校	東京都	全国	本校-東京都	本校-全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	56.7	68.3	62.3	-11.6	-5.6
	B 図形	50.3	61.2	56.2	-10.9	-5.9
	C 測定	43.0	60.5	54.8	-17.5	-11.8
	C 変化と関係	48.4	64.9	57.5	-16.5	-9.1
	D データの活用	57.7	67.6	62.6	-9.9	-4.9
評価の観点	知識・技能	60.7	70.9	65.5	-10.2	-4.8
	思考・判断・表現	41.7	54.4	48.3	-12.7	-6.6
問題形式	選択式	63.4	73.5	67.2	-10.1	-3.8
	短答式	58.3	69.3	64.0	-11.0	-5.7
	記述式	27.0	40.7	34.9	-13.7	-7.9

分析

「学習指導要領の領域」における「数と計算」「図形」「測定・変化と関係」「データの活用」の全体にわたって、東京都及び全国の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「測定・変化と関係」である。割合の問題において基準量や比較量を捉え、立式したうえで正確に計算をすることを苦手とする児童が少なくない。また、「問題形式」の「記述式」の正答率及び差にも顕著に表れ、自分の考えを筋道立てて説明することが苦手とする児童が多い。

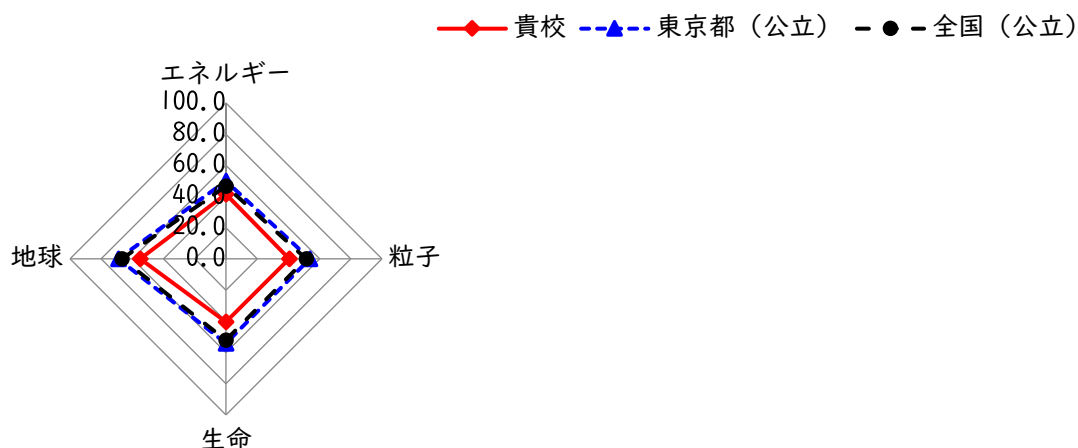
このような結果から、今後の学習において数量の比べ方や表し方について理解し、数量を求めたり、必要なデータを収集し表やグラフにまとめ、言葉で説明したりすることが重要だと考える。

授業改善

- 江戸川区算数授業スタンダードで示された授業展開である中、式や図、言葉を用いてまとめる自力解決の場面及び、様々な考えに触れる交流活動を設定し、児童一人一人の思考力を高める。
- 身近な事象と関係付けて指導を行い、学習への意欲につなげる。また、図や数直線等の具体物を提示し、答えの求め方に必要な情報を見付け出す活動を取り入れ、筋道立てて考えていくことのよさを実感させる。
- 学力プロジェクト(4・5年生対象)の結果を基に、児童のつまずきを把握し、理解が低い学習内容を授業の時間に復習する。また、学校全体で4・5年生の苦手な範囲を共有し、下学年のうちに苦手分野の克服を目指す。
- 東京ベーシックドリルプリントを活用し、前学年の計算問題や既習内容を繰り返し取り組み、定着を図る。
- タブレットアプリ「ミライシード」を活用し、既習内容の確認や当該学年の学習の復習を行い、定着を図る。

【理科】

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



集計結果

分類		区分	平均正答率(%)			差	
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）	本校-東京都	本校-全国
学習指導要領の区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	41.6	49.9	46.7	-8.3	-5.1
		「粒子」を柱とする領域	40.5	53.7	51.4	-13.2	-10.9
	B 区分	「生命」を柱とする領域	40.4	54.1	52.0	-13.7	-11.6
		「地球」を柱とする領域	55.0	69.1	66.7	-14.1	-11.7
評価の観点		知識・技能	43.0	57.7	55.3	-14.7	-12.3
		思考・判断・表現	52.5	61.2	58.7	-8.7	-6.2
問題形式		選択式	46.1	57.9	54.7	-11.8	-8.6
		短答式	57.3	70.6	69.7	-13.3	-12.4
		記述式	40.1	46.6	45.2	-6.5	-5.1

分析

「学習指導要領の領域」における「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域全体にわたって、東京都及び全国の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかったのはB区分である。学習内容が知識として身に付いていない児童がいること、実験や観察の結果の差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することが苦手な児童が多いことが分かる。

授業改善

- 事象との出会いを基に学習問題をとらえ、その問題に取り組む問題解決型の授業を行い児童に問題解決型の学習に慣れさせる。
- 授業で実験結果から考察を行う際、図や表、絵などを用いながら具体的に選択し、自分の言葉でまとめさせることで、記述することへの抵抗感を減らしていく。
- 各単元のまとめをする際に、テーマや視点を与え、要点を抑えたうえでまとめさせることで、基礎基本の定着を図る。
- タブレットアプリ「ミライシード」を活用し、既習内容の確認や当該学年の学習の復習を行い、定着を図る。